

へ」ト云ハル、モノデ孔雀島上ニモグレーブネル教授ニヨレバ八百年以上ノ樹齡ヲ持ツテ居ルモノガアルトノ事デアル

予等ハ島内ヲ巡見シナガラグレーブネル教授ノ「アイヘ」ノ話ヤ又芝生ノ上ニ可ナリ多數ニ見出サレタ胎芽ヲ生ズル禾本科ノ一種 *Poa bulbosa* ナドノ話ヲ聽キ其レカラ又島内ノ一小部ニアル「ハイデ」狀ノ處ニ至リ已ニ花ノ咲イタ *Genista pilosa* 等ヲ採ツタ此處カルナモ澤山アツタガ時期尙早ク乾枯シテ居ッタ、因ニ此カルナト稱スル植物ハ眞夏頃花盛リデ獨逸人ナドハ其ノ花見ニ遠足ニ出掛ケルガ日本ナドニハ見ラレヌ花見デアル

(未完)

○おたくさ Otaksa トハ果シテシーボルド來朝時代ニ於テ あぢさゐニ對スル和名ナリシカ

澤田 武 太 郎

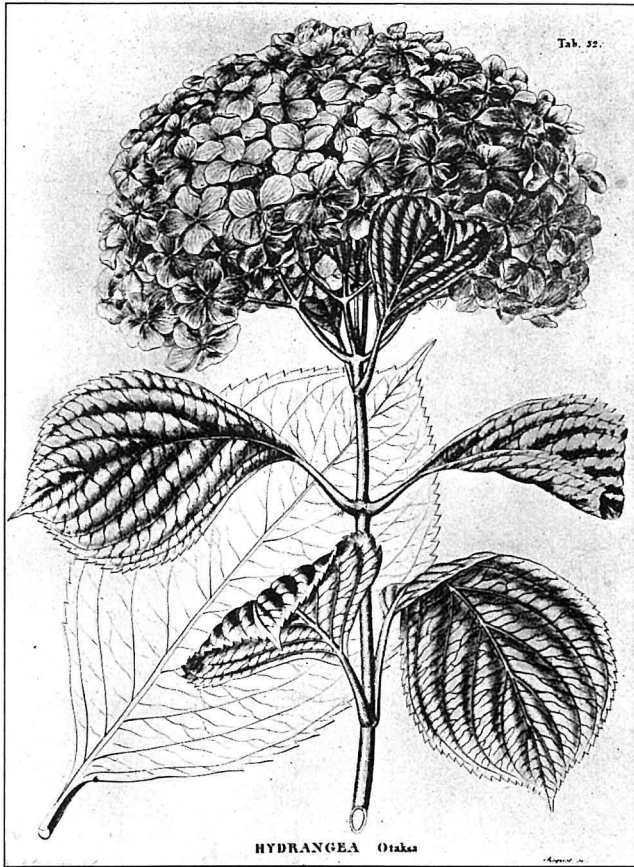
P. F. Shebold & J. G. Zuccarini トノ共著 *Flora Japonica* 第一卷 (1835 我天保六年出版) 百〇五頁ヲ繙イテ見ルト *Hydrangea Otaksa* ノ新學名ト之レニ對スル原記載ガアリ又其百〇六頁ニ至リ *Nomen Japon. Otaksa* トアル、尙其五十二圖版ニ就テ見ルニ此學名ニ對スル植物ガあぢさゐデアルコト疑ノ餘地ガナイ (次頁ノ寫眞參照) ソコデ *Otaksa* ハあぢさゐノ方言デアッタロウトノ想像ガ起ツテ來ル

此點ニ關シテ E. H. Wilson ハ疑ヲ以テ Siebold's name "*Otaksa*" is not used in Japan today and Japanese scholars fail to understand its derivation (*Journal of Arnold Arboretum*, Vol. IV. No. 1, p. 237 [1923].) ト放言シテ居ルガ、大正十五年再版ノ吳秀三著「シーボルド先生」ノ書ニハ次ノヤウニ之レガ簡單ニ片付ケテアル

おたくさ *Otaksa* トハ果シテシーボルド來朝時代ニ於テあぢさゐニ對スル和名ナリシカ

おたくさ Otaksa トハ果シテシーボルド來朝時代ニ於テあぢさゐニ對スル和名ナリシカ

おたくさ *Hydrangea Otaksa* Sieb. et Zucc.
(Siebold et Zuccarini, Flora Japonica III)



【牧野云フ】あぢさゐハ昔ハあづさゐト
呼ビ後ニあぢさゐトナッタ、從來之レニ
紫陽花ノ漢名ガ充テ、アルガ紫陽花ハ元
ト支那ノ有名ナ詩人ノ白樂天ガ始メテ或
ル山花ニ興ヘタ名デ其レガ果シテ此あぢ
さゐガカ何シタカ判然タル證據ハナイ其
レ故小野蘭山モ疾クニ之レヲ否定シテ居
ル次第ダガ然シ蘭山ノ言フ様ニ之レヲ秘
傳花鏡ノ八仙花ニ充ツルモ亦考ヘモン
ダ、此シナ花木ハ木蘭、連翹、瑞香ナド
ノ様ニ大抵支那カラ來タモノガ多イガ獨
リ此あぢさゐハ何シタカ唐吳イ姿ハシテ
居ルモノ、私ハ此レハ原ト我日本デ出生
シタモノデハナイカト疑ヒラ有ツテ居
ル、シーボルドガ種名トシテ用キタあぢ
さゐ即チ *Hydrangea Asaii* ハがくさ
う一名ガくあぢさゐノ事デ普通ニ云フあ
ぢさゐデハナイ、シーボルドハあぢさゐ
ノ和名ヲ私ニ變更シテ我が國デ目じリヲ
下ゲタ女郎ノお瀧(源氏名ハ其扇^{そのあし})ノ
名ヲ之レニ用キタ大ニ其花ノ神聖ヲ瀆シ
タ、脂ギツタ醜イ淫賣婦ト醜麗ナ無垢ノ
あぢさゐ、此清淨ナ花ハ長ヘニ糞汁ニ汚
サレテシマッタ、ア、可哀想ナ我があぢ
さゐヨ



シロホルドノ妾楠本お瀧 (源氏名其扇)^{ソノギ}

即チ Siebold ガ初度ノ長崎在留中愛妾楠本お瀧ト云フ婦人ガアリ Siebold ハ常ニ彼女ヲオタクサ Otaksa ト呼ンデキタ(三百四十八頁)又「先生は日本を去りて後多年、一意日本植物蒐集材料に關する著作と整頓とに盡したるが、その間出版されたる著書「日本」にもソノギ(其扇)とし又オタクサン(御瀧さん)として二度肖像ヲ掲ゲ「日本植物誌」に於ては紫陽花^{アデラギ}に Hydrangea Otaksa の名を附したりなどせるは彼が日本の風物動植を憶ふにつれて別けて楠本氏にその心を引付けられて絶えず思ひ慕ひ居りしならん(四百四十七頁)トアル

然ラバ Siebold ハ Hydrangea Otaksa ノ種名ノ由來ヲ楠本お瀧ニ獻ズル意ヲ附記シテ置カナカッタノデモアリ Siebold ハ世人ガ思フ程ナ植物分類ノ大學者デハナク Flora Japonica ハ唯 Siebold ガ其材料ヲ我日本ニ蒐メテ之ヲ歐洲ニ廻シ其命名記載ノ植物學的ノ仕事ハ専ラ共同著者トナツテキル Zuccarini ガ彼ノ土ニ於テ濟シタニ過ギナイカラ(ソレハ丁度明治大正ニ於ケル Faure ノ様ナモノダ) Hydrangea Otaksa ノ場合ニ於テハ Siebold ハ命名材料供給者ノ立場カラハ Otaksa ハ Nomen Japon ト言ツテ居ナケレバナラナカッタノデハナカッタロウカ、或ハ Zuccarini ノ獨斷デ Otaksa ノ意義ガ解決出來ヌ所カラ Nomen Japon トシテ片付ケテシマッタノデハアルマイカ、本誌第二卷第一號ノ口繪あぢさゐノ牧野氏説明文ニアル通り「是レハ多分命名

(あぢさゐのくさの名となるお瀧さん間に咲く花明るく出づ 結婚子)

おたくさ Otaksa トハ果シテシーホルド來朝時代ニ於テあぢさゐニ對スル和名ナリシカ

まほがにー樹トハドンナモノ歟

者ガ何カノ間違違ヲシタモノデハナイカト思フ」

兎ニモ角ニモ當時ノ先進文明國人 PHILIPP FRANZ VON SEBOLD ハ或ハ黃色人種ノ日本婦人ヲ愛人ニシタコト
ガ社交ニ於ケル大イナル Handicap ニナルノデ自己ノ榮譽ニ對シテ此一事ニ就テハ口ヲ噤マナケレバナラナカ
ッタノデハナカッタノデアロウカ、否カ

ソレダノニ Wilson ハ Japanese scholars fail to understand ナンテ馬鹿ナコトラ放言^{ヌカ}シタモノダ日本ノ分類學
者如何ニ賢明ナリト雖モシーボルドノ夜伽ノ名マデ知ロウ筈ハナイ、コンナコトニナルトスルト後日ノ爲メ
氏ガ東洋旅行中携帶シタ夫人ノ戸籍謄本デモトツテオカネバナナルマイジヤナイカ

○まほがにー樹トハドンナモノ歟

久 内 清 孝

Mahogany ト云フ名詞ハ英語讀本デお馴じみノ語デアルガ日本人ニハ居ナガラ其正體ヲ會得スルコトハ困難デ
アルト思フカラ以下聊カまほがにーヲ紹介スル、但シ實物ヲ見ズニスル紹介デアルコトラ斷ツテ置ク ●ま
ほがにートシテ世ニ知レテ居ル木ハ通常二種デアッテ何レモ中央亞米利加ヲ中心トシ其南北ニ自生シ他ニハ絶
對ニ天然生ナキ種類デセんだん科 Meliaceae ニ屬シテ居テ學名ヲ Swietenia Mahagoni Jacq. (S. Mahagoni L.)
ト云フモノト S. macrophylla KING. ト云フモノトアルガ前者ガ正真正銘ナまほがにーデアル ●屬名 Swie-
tenia ハ千七百六十年ニ JACQUIN ノ始テ命名シタモノデ當時ノ獨逸國ノ女帝 MARIA THERESA ノ侍醫 GERARD
VAN SWIETEN ノ名ニ因ンダモノデ種名 Mahagoni ガ土語デ英語ノ Mahogany ハ其轉化デアル ●まほがに
ー樹ハ能ク成長スル時ニハ高サ八十乃至百呎ニモ達シ樹幹ハ直徑四乃至六呎ヲ示ス就中樹ノ基部ハ非常ニ肥大
シ八月ノ候白色又ハ淡紫色ノ小花ヲ開キ十、十一月頃ニ至リ暗褐色ノ蒴果ヲ著ク其長サ三乃至六吋幅員一乃至